

科目名	社会調査実習2			ナンバリング	SOC261	授業形態	実習
対象学年	3年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1単位
代表教員	菊池真弓	担当教員	菅野昌史				

授業の概要	社会調査実習1で実施した調査について、引き続き、データの作成、集計分析を行い、報告書としてまとめていくことを目標とする。報告レポートは、調査協力者へのフィードバックや地域還元を目的とした報告書としてまとめた形で印刷し、関係機関に配布する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.回収調査票のエディティング・コーディング作業を行うことができる。 2.データの入力・集計作業を正確に行い、データの分析・考察を加えることができる。 3.ヒアリング調査を実施して、ヒアリングレポートを作成することができる。 4.グループ別に報告会を行うことができ、報告書レポートを作成することができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	本実習は、社会調査士資格のG科目となるため、3年次までに資格認定A～G科目をすべて履修していることが望ましい(「社会調査の基礎」、「調査の設計と方法」、「社会データ分析」、「質的調査の方法」)。また、「社会調査実習2」も続けて受講すること(2だけの受講及び1の単位を取得できなかった場合は受講できない)。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1.回収調査票のエディティング・コーディング作業を行うことができる。 2.データの入力・集計作業ができ、データの分析・考察を加えることができる。 3.ヒアリング調査を実施して、ヒアリングレポートを作成することができる。 4.グループ内の役割分担に基づき、報告会を行い、報告書レポートを作成することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.回収調査票のエディティング・コーディング作業を正確に行うことができる。 2.データの入力・集計作業が正確にでき、踏み込んだデータの分析・考察を加えることができる。 3.ヒアリング調査を実施して、ヒアリングレポートを作成・分析・考察を加えることができる。 4.グループ内の役割分担に基づき、調査結果の報告を行い、かつ報告書レポートの内容が優れている。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○				30%
宿題・授業外レポート	○	○	○				30%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1.毎回の質問や感想などについては、授業内にコメントする。 2.授業内課題、報告レポートなどについては、コメントを加えて返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	回収調査票のチェック、エディティング	エディティング作業の注意点を理解し、正確な作業を行うことができる。	
	第2回	コーディングについて	コーディング作業の注意点を理解し、正確な作業を行うことができる。	
	第3回	データ入力ガイダンス	アンケートソフトの操作およびデータ入力の方法を理解し、正確に入力作業を行うことができる。	
	第4回	データ入力作業、データ修正作業	データ入力作業およびデータ修正作業を行うことができる。	
	第5回	単純集計、集計案作成	単純集計結果に基づき、グループ別にクロス集計案を作成することができる。	
	第6回	集計方法ガイダンス	クロス集計表の作成の仕方を理解し、それについての分析・考察を加えることができる。	
	第7回	分析報告①—クロス集計表の見直し	グループミーティングを行い、クロス集計表の見直しを行うことができる。	
	第8回	分析報告②—クロス集計表の分析・考察	グループミーティングを行い、クロス集計表についての分析・考察を加えることができる。	
	第9回	ヒアリング調査計画	外部講師や協力団体の講義により、調査地域を理解し、レポートにまとめることができる。	
	第10回	ヒアリング調査	外部講師や協力団体に対するヒアリング調査を行うことができる。	
	第11回	分析報告③—グループ別の報告準備	グループ別のレジюмеを作成し、報告を行うことができる。	
	第12回	分析報告④—グループ別のレジюме作成	グループ別のレジюмеを作成し、報告を行うことができる。	
	第13回	分析報告⑤—グループ別の報告会	グループ別のレジюмеを作成し、報告を行うことができる。	
	第14回	報告書用レポート提出	グループ別に報告書用レポートを作成し、提出することができる。	
	第15回	修正レポート提出	グループ別に報告書用レポートに修正を加えて完成することができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方	①データの入力・集計作業を正確に行い、データの分析・考察を加える。②ヒアリング調査を実施して、ヒアリングレポートを作成して分析・考察を加える。③グループ別に報告を行い、報告書レポートを作成する。			
授業外学習の指示	【予習】配布資料等を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。【復習】個人課題やグループ課題などについて、配布プリント等を復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	1.「いわき明星大学現代社会学科ブログ」 http://imugensya.blogspot.jp/ 2.「いわき明星大学社会調査実習室」 http://www2.iwakimu.ac.jp/~imusocio/
その他	①初回の授業には、必ず出席すること(理由なく欠席した場合には、履修できないこともあるので注意する)。②e-ポートフォリオ「manab@IMU」を利用して、グループプロジェクトを実施したり、レポート課題の提出を行ってまいります。

ルーブリック「社会調査実習2」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	調査対象への関心	調査対象に対する関心を持ち、主体的にテーマを掘り下げて調査計画を立て、それを実行している。	調査対象に対する関心を持ち、教員のアドバイスも参考にテーマを掘り下げて調査計画を立て、それを実行している。	調査対象に対する関心がなく、調査を実行することができない。
2	調査の各段階における課題	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）を提出し、かつ内容が優れている。	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）を提出している。	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）をせず、提出していない。
3	グループへの貢献	グループ内での役割分担の作業をこなすだけでなく、グループ全体の作業フォローも行っている。	グループ内での役割分担に基づき、定められた作業をまとめる。	グループ内での役割分担に基づき、定められた作業をまとめる。
4	調査結果のプレゼンテーション	調査結果で得られた内容について、グループとして報告し、かつ内容が優れている。	調査結果で得られた内容について、グループとして報告することに参画している。	調査結果で得られた内容について、グループとして報告することに貢献できていない。
5				
6				
7				